



UVI WORKSTATION

ソフトウェア ユーザー マニュアル

Version 4.0
JP 2503105

ソフトウェア使用許諾 (EULA)

////////////////////////////////////

本製品を使用するには、[EULA\(エンドユーザー使用許諾契約\)](#)に同意する必要があります。
[EULA\(エンドユーザー使用許諾契約\)の確認はこちらをクリック](#)します。

目次

イントロダクション	4
UVI Workstationのインストール	5
操作画面	
初期画面	6
ライブラリーブラウザー	7
ファイルブラウザー	8
シングルモード	
サウンドバンク	9
ループ・フレーズ	10
マルチモード	
MIXER (ミキサー) タブ	11
SETTINGS (設定) タブ	12
エフェクト	13
アルペジエーター	14
ファイルブラウザー・マルチブラウザー	15
環境設定	16
Audio and MIDI settings (オーディオ/MIDI設定)	17
ヒントと秘訣	18
トラブルシューティング	20
リンク	21
クレジットと謝辞	22

WORKSTATION

UVI Workstation

UVI サウンドの世界へと誘うパワフルかつシンプルで
簡単な音源プレイヤー

UVI WorkstationはUVIサウンドバンク・サウンドウェアと呼ばれる音源ライブラリーを扱うためのプレイヤーです。単に、読み込んで演奏するだけでなく、音色のレイヤー、エフェクトの追加、アルペジエーターの活用など多彩な機能も装備します。その歴史は長く、20数年かけてアップデートされてきた絶対的なサウンド品質と安定性が担保されています。

最新のバージョン4では、UIの最適化が図られ、新設計のブラウザーで、充実したUVIサウンドバンクを探索し、ワード検索、タグによる絞り込み、お気に入り登録、そしてオーディオプレビューで、インスピレーションを刺激しつつ目的のプリセットを見つけることができます。

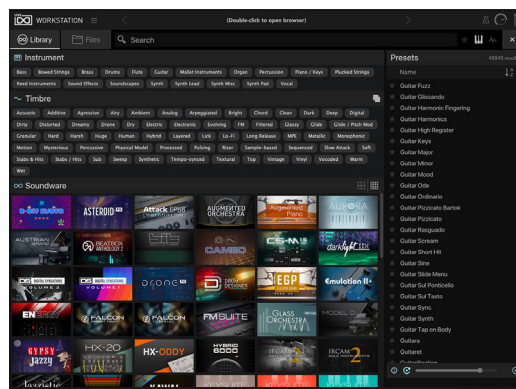
UVI Workstationは完全無料で、あらゆる最新DAWのプラグインまたはスタンドアロンの単独動作が可能です。そしてすぐに利用できる「UVI Starter」サウンドパックも付属します。

UVIの世界へ飛び込み、新たなインスピレーションを発見しましょう。



主な特徴

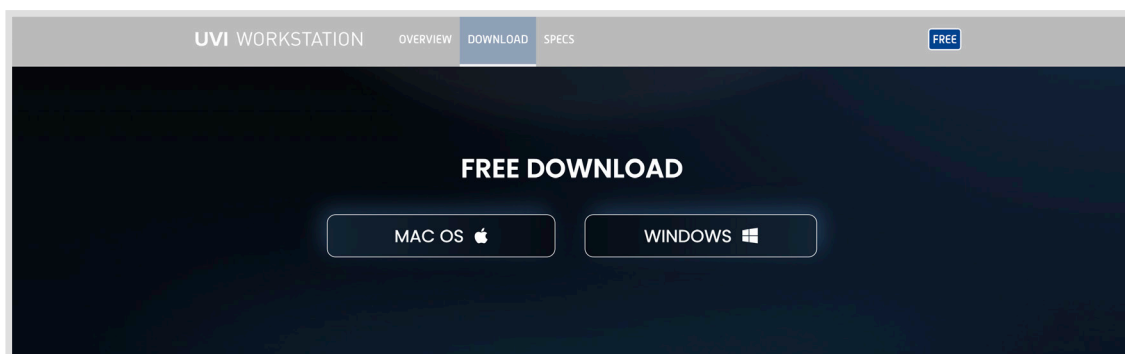
- ・ シングルモード - 1つのUVIサウンドや音源を詳細操作
- ・ マルチモード - 複数パートのサウンドと音源を操作。一般的なミキサー設定、パートごとのキースイッチや音域、マルチ出力設定、エフェクトの追加やアルペジエーター設定など
- ・ 選べられるブラウザー - タグ&オーディオプレビューを備えた最新のブラウザーや伝統的なカラム表示ブラウザーから目的のサウンドを見つけることが可能
- ・ 画面スケーリング - 多種多様なスクリーンサイズで適切な表示
- ・ 先進的なパワフルアルペジエーター
- ・ スタジオ品位のエフェクト類 - ディレイ、リバーブ、モジュレーション系、EQ、フィルター、歪系、ダイナミクス系などを一通り装備)
- ・ 音源(インストゥルメント)とオーディオループの両方に対応。個別のパートで同時に扱うことも可能
- ・ リアルタイムタイムストレッチとスライス機能を装備。ループのリアルタイムビートシンクに対応
- ・ オーディオとMIDIのドラッグ&ドロップ
- ・ REX、Apple Loops、AIFF、WAVなどのオーディオ波形の読込
- ・ すべてのUVI音源に対応
- ・ パラメーターのクイックMIDI設定
- ・ パラメーターのホストオートメーション設定(最大128)



UVI Workstationのインストール

- ▶ 最新バージョンの UVI Workstationは、[ウェブサイト](#) または [UVI Portal](#)を通じてダウンロードをします。
- ▶ 別売のサウンドライブラリを利用するには、iLok アカウント(無料)が必要です。別売の iLok キーは必須ではありません。
- ▶ サウンドライブラリ/インストゥルメントは、[uvi.net](#)でお客様に提供されます。
- ▶ システム条件や互換性については、[こちらをクリック](#) することでご確認できます。

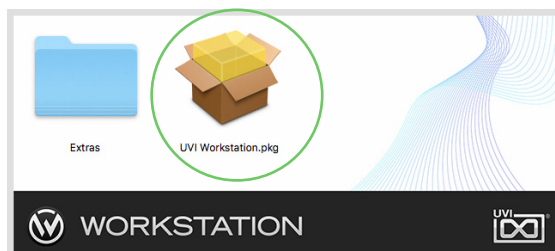
1. ご利用環境に適合したUVI Workstationをダウンロードします。



2. ダウンロードが完了しましたら、そのファイルをダブルクリックして、インストーラを起動します。

Mac環境はUVI Workstation.dmg
> UVI Workstation.pkg

Windows環境はUVI Workstation.exe



3. 画面表示に従って、インストールを完了します。

*Windows環境ではVSTプラグインのインストール先をご利用のDAWで設定されているVST Pluginsフォルダに合わせるようにします。

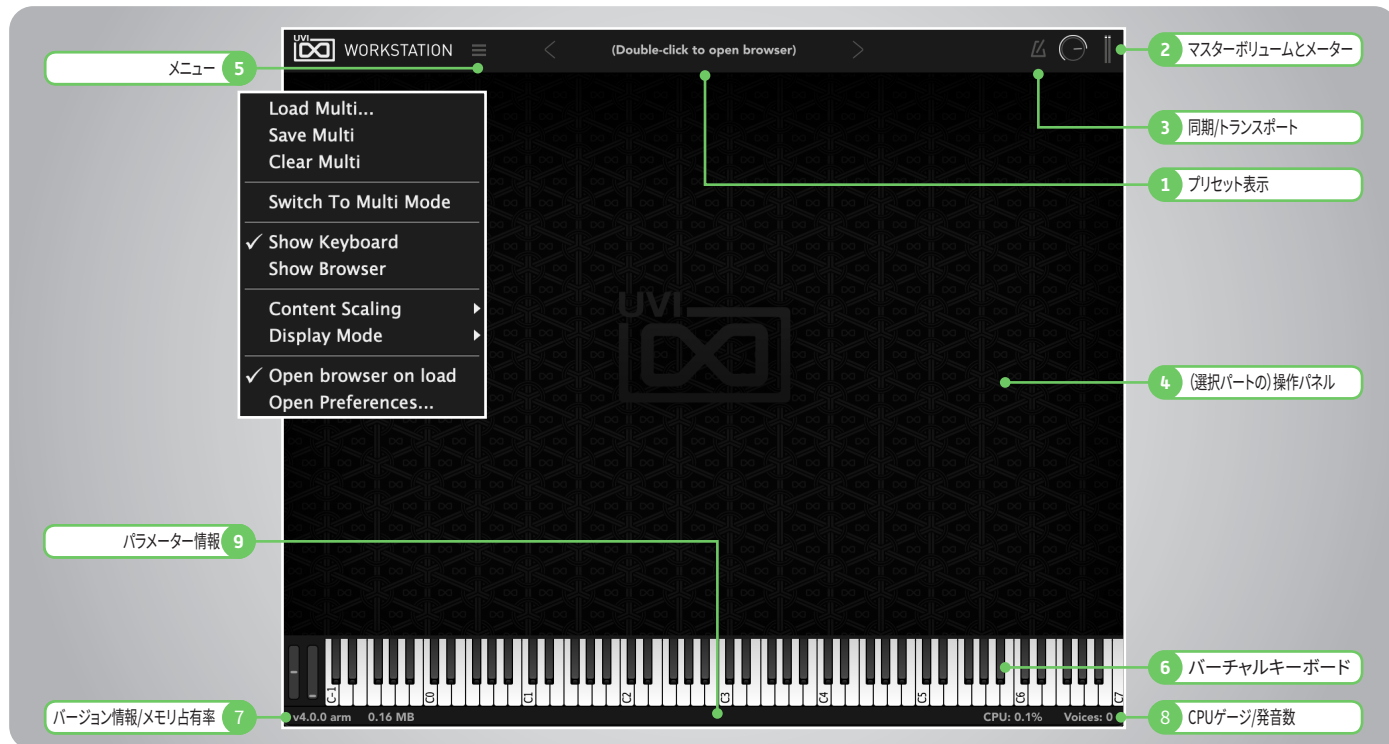
デフォルトのインストール先:

Program Files/Steinberg/VSTPlugins



- » アップデートする際はアンインストールをおこなってからインストールを実行することをお勧めします。
アンインストールによって基本設定が失われることはありません。

操作画面：初期状態



1 ▶ プリセット表示

現在表示のパートに読み込まれているプリセット名を表示します。

ここでは以下の操作が可能です：

- **ダブルクリック** - 音色選びのためのブラウザーを開きます。
- **クリック** - 現在のプリセットと同じグループ(フォルダ)内のプリセットの一覧がメニュー表示されます。
- **右クリック** - 現在のプリセットをお気に入り登録(Add to favorite)します。
- **プリセット名の両脇のボタン(<と>)**で、プリセットを1つ前または後ろに切り替えます。

2 ▶ マスターボリュームとメーター

音源全体の音量設定とレベル表示をします。

3 ▶ 同期/トランスポート

テンポ同期やトランスポート操作をする設定を表示します。(詳細は9ページに記載)

4 ▶ (選択パート)の操作パネル

選択された音色(のインストゥルメント)の操作パネルを表示します。

操作や詳細については、個々のライブラリーのマニュアルに記載しています。

5 ▶ メニュー

- » **Load Multi...(マルチを開く)**
パートの音色設定を含む、UVI Workstation全体の設定を保存したファイルを開きます。
- » **Save Multi(マルチとして保存)**
現在の状態を任意箇所にファイル保存します。保存済みの設定を上書きする場合は、同じ名前前で保存をします。
- » **Clear Multi(マルチを初期化)**
現在の状態を初期状態にします。
- » **Switch To Multi/Single Mode(モード切替)**
画面のマルチとシングルモードの切り替えをします。シングルモードではマルチモードで選択されたパートが表示されます。
- » **Show Keyboard(キーボード表示)**
バーチャルキーボードの表示/非表示をします。
- » **Show Browser(ブラウザー表示)**
音色選びをするためのブラウザーを開きます。
- » **Content Scaling(コンテンツスケール)**
画面の表示倍率を設定します。
- » **Display Mode(ディスプレイモード)**
画面表示を設定します。従来通りのFitted(フィット)、上端のツールバーが自動で隠れるFrameless(フレームレス)、Large(大型)から選択します。
- » **Open browser on load(ブラウザー起動)**
起動時にブラウザーを開きます。
- » **Open Preferences...(環境設定)**
環境設定パネルを開きます。(詳細は15ページに記載)

6 ▶ バーチャルキーボード

内蔵のバーチャルキーボード表示です。

マウスクリックで選択パートの音色の演奏が可能です。また、パートにMIDIノートが入力された場合、ノート表示が反応します。

7 ▶ バージョン情報/メモリ占有率

- » **バージョン情報**
インストールされているUVI Workstationのバージョンを表示します。

- » **メモリ占有率**
全体のメモリ消費を表示します。

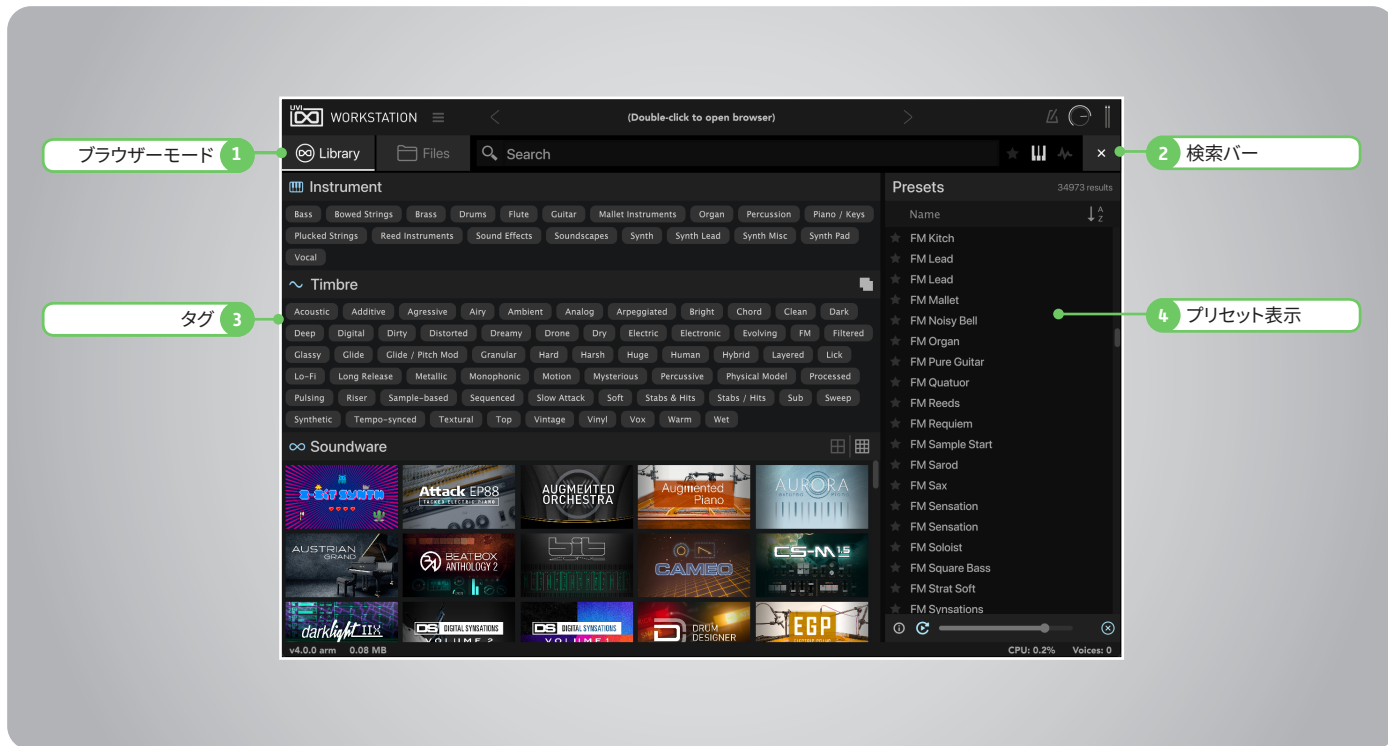
8 ▶ CPUゲージ/発音数

- » **CPUゲージ**
CPUプロセッサの稼働率を表示します。
- » **発音数**
全パートの発音数を表示します。

9 ▶ パラメーター情報

マウスカーソルを重ねた画面上のパラメーターに関する情報を表示します。

音色選択:ライブラリーブラウザー



このブラウザーでは、ワード検索とタグによる絞り込みによる音色やループ、サンプルファイルの選択をします。
ここではプリセット音色のオーディオプレビューとお気に入り登録された音色の絞り込みも可能です。

1 ▶ ブラウザーモード

ブラウザーのモードを切り替えます。

Library(ライブラリー)はワード検索とタグ絞り込み、オーディオプレビューを備えた新型ブラウザーで、**Files**(ファイル)は従来通りのカラム式ブラウザーです。

3 ▶ 検索バー

» Search(検索欄)

虫眼鏡アイコン横の欄に半角英数字でワード入力することで、音色検索をします。

虫眼鏡アイコンの右クリックで、以下のコマンドが利用できます:

- **Clear non available volumes** - 使用できないボリュームを検索対象から外します。
- **Reset Database** - データベースを再構築します。

» お気に入り(星アイコン)

お気に入り登録された音色のみに絞り込みます。

» プリセット(鍵盤アイコン)

音色プリセットの検索をします。

» サンプル(波形アイコン)

- サンプルやループの検索をします。

» 閉じる(X) - ブラウザーを閉じます。

3 ▶ タグ

ライブラリーブラウザーのメインパートはタグブラウジングで、以下の3つに分類され、これらのタグの組み合わせで検索結果を絞り込みます:

- **Instrument**(インストゥルメント) - 楽器/音源の種類
- **Timbre**(ティンバー) - 音色の種類
- **Soundware**(サウンドウェア) - UVIサウンドバンク

command (mac) / contorl (Windows) + クリックで、複数のタグを選択することが可能です。

Timbreラベル右端のスイッチは、複数タグ使用時の"AND"/"OR"検索の切り替えをします。

Soundbanksラベル右端のスイッチは、サムネール表示の大小を切り替えます。

4 ▶ プリセット表示 (Presets)

様々な設定によって、絞り込まれた音色がここに一覧表示されます。

プリセット名横の星アイコンで、そのプリセットをお気に入り登録します。

» プリセット名ラベル(Name)

この箇所のクリックで、一覧表示の順序を変更できます。

右クリックで、この箇所の表示項目の設定が可能です。

» プリセット情報(i)

プリセットのタグなどを確認できます。

» オートプレビュー

音色を選択した際に、オーディオプレビューが自動で実行されます。

» プレビューボリューム

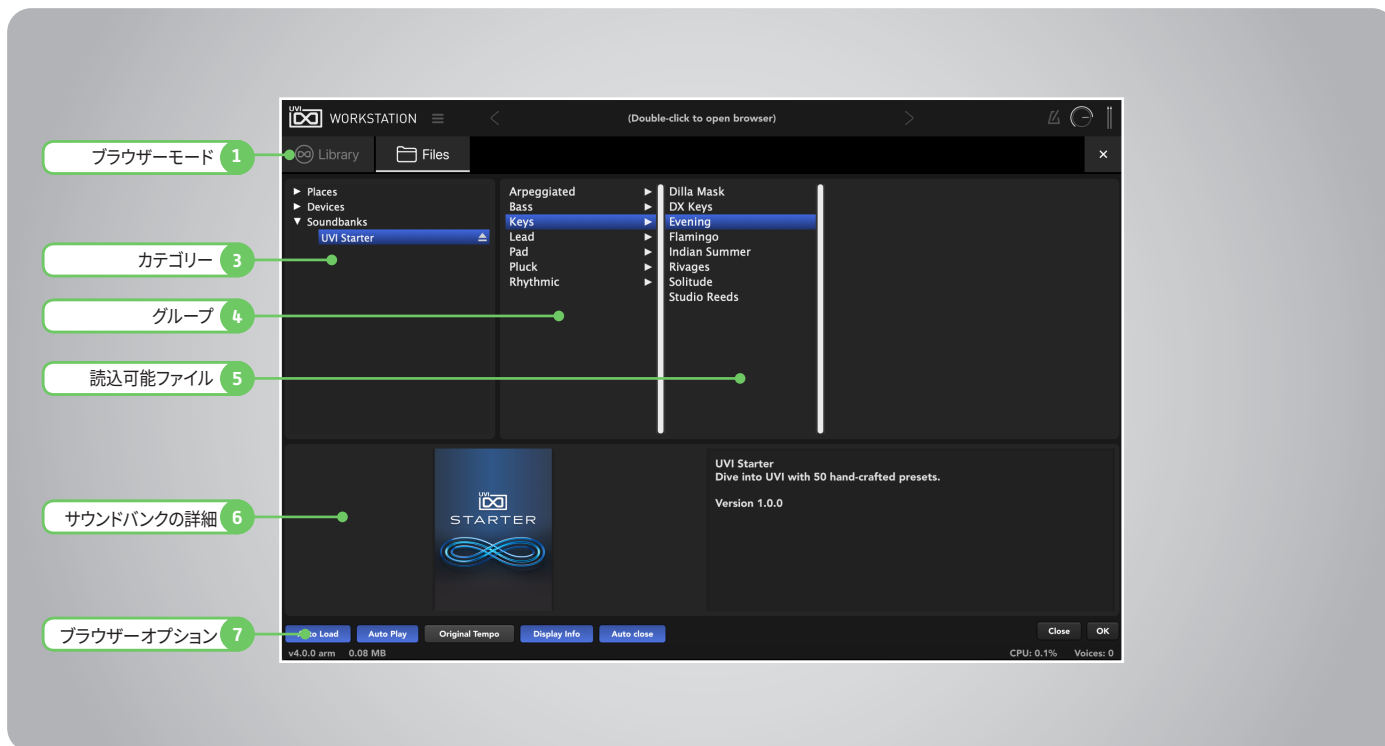
オーディオプレビューの音量調整をします。

» Auto Close(オートクローズ)

通常、音色プリセットやファイルをダブルクリックした場合、ファイルはパートに読み込まれ、ブラウザーは自動で閉じます。

オフにした際は、画面右上の"X"ボタンを使用してブラウザーを閉じます。

音色選択: ファイルブラウザー



このブラウザーは、一般的なカラムスタイルのブラウザーです。左端のカテゴリーを選択しますと、その内容が右の列に表示されます。

そこにグループ分けされたフォルダが存在する場合、さらにその内容が右横の列に表示されます。

メモ: UVIサウンドバンクの中には音色切替の速度を考慮して、音色プリセットをお専用画面で選ぶ仕様のもも存在します。その際は、サウンドバンクの読み込後に音色を選びます。

1 ▶ ブラウザーモード

ブラウザーのモードを切り替えます。

Library (ライブラリー) はワード検索とタグ絞り込み、オーディオプレビューを備えた新型ブラウザーで、**Files** (ファイル) は従来通りのカラム式ブラウザーです。

2 ▶ カテゴリー

- » **Places (フォルダ)**
登録されたフォルダにアクセスするためのカテゴリーです。登録方法は、ここ、あるいは下の **Devices** から選んだフォルダをここにドラッグ&ドロップします。
- » **Devices (デバイス)**
PCが認識したドライブを表示します。
- » **Soundbanks (サウンドバンク)**
マウントされたUVIライブラリーを表示します。

4 ▶ グループ

音色グループを表示します。多くのUVIサウンドバンクライブラリーでは、同じタイプの音色プリセットにグループ分けされています。

5 ▶ 読み込可能ファイル

音色プリセットやループなど、UVI Workstationで読み込むことが可能なファイルが表示されます。

ループやサンプルファイルの場合、ここからDAWのトラックなどに直接ドラッグ&ドロップすることも可能です。

メモ: プリセットが1つしか存在しない場合、プリセット切り替えは、サウンドバンク内でおこなうことを示唆します。

6 ▶ サウンドバンクの詳細

ブラウザービューでは、選択された音色が属している音源コレクションに関する情報やサウンドバンクのバージョンなど(英語)を表示します。

7 ▶ ブラウザーオプション

- » **Auto Load (オートロード)**
ブラウザーの選択ファイルがループやフレーズであった場合、クリックをすることでブラウザーを閉じることなくファイルをパートに読み込ませます。このことで快適な試聴が可能です。
- » **Auto Play (オートプレイ)**
Auto Loadと合わせて使用します。選択ファイルがループであった場合、クリックをすることでブラウザーを閉じることなくファイルをパートに読み込まれ、自動再生をします。
- » **Original Tempo (オリジナルテンポ)**
ループファイルをタイムストレッチすることなく、元のテンポで試聴をします。
- » **Display Info (インフォ表示)**
インストールメントの詳細表示を隠してブラウザーの領域を広げる際に使用します。
- » **Auto Close (オートクローズ)**
通常、音色プリセットやファイルをダブルクリックした場合、ファイルはパートに読み込まれ、ブラウザーは自動で閉じます。
- » **Close** - 変更を適用せずにブラウザーを閉じます。
- » **OK** - 変更適用してブラウザーを閉じます。

操作画面：シングル (Single) モード - サウンドバンク



メモ：パートに読み込まれた音色によって、操作画面 (1) の内容は変化します。
専用画面を持たない (旧タイプ) のサウンドバンクのプリセットを開いた場合、一般的なシンセサイザーパラメーターが用意されます。

1 (選択パート) の操作パネル

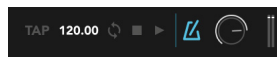
選択された音色 (のインストゥルメント) の操作パネルを表示します。

ここでは、付属のStartサウンドバンクについて解説します：

- » **プリセット名**
画面上端中央に現在開いている音色名が表示されます。
- » **マクロコントロール**
画面下端のノブやスイッチ類は、演奏しながらのリアルタイム操作や鍵となるサウンド調整のためのパラメーターで、複数のパラメーターを1つのコントロールで操作するものもあります。
これらのマクロは、MIDI学習機能で、お手元のMIDIコントローラーに割り当てて操作することができます。
また、オートメーションを設定して、DAWで操作することも可能です。
その他のサウンドバンクの操作や詳細については、個々のライブラリーのマニュアルに記載しています。

2 同期/トランスポート

テンポ同期やトランスポート操作をする設定を表示します。



- » **TAP (タップテンポ)**
この箇所をリズムに合わせて数回クリックすることで、それに応じたテンポが設定されます。
- » **テンポ**
マスターテンポを表示します。
同期を解除 (ホストシンクオフ時) した場合、この箇所のクリック&ドラッグ、あるいはダブルクリック後、数値入力でテンポを設定します。
プラグインモード (ホストシンクオン) 時、ここは表示のみで操作することはできません。
- » **ホストシンク**
DAWのソングテンポ (プラグインモード時) または外部のMIDIクロック (単体起動時) に同期する際に使用します。
- » **再生と停止 (■ ▶)**
UVI Workstationの再生と停止を操作します。外部同期している場合、これらのボタンはホストの動作と連動します。

マルチ<>シングルモードの切替に関する重要事項：
シングルモードで表示されている画面は、マルチモードで選択されているパートの詳細画面です。従いまして、マルチモードからシングルモードに切り替える際、選択されているパートの画面になることを覚えておきましょう。

操作画面：シングル (Single) モード - ループ/フレーズ



UVIサウンドバンクに含まれているループやフレーズ素材、(ドラッグ&ドロップで) 外部のサウンドファイル (WAV/AIFF/REX あるいは Apple Loops) を読み込んだ際に、この画面が表示されます。
 メモ：オーディオ素材の種類や内容によって再生モードが限定されます。スライス可能なループ素材は、すべての再生モードが利用可能です。
 スライス可能なループ素材 (REXなど) は、ブラウザービューでクリックするだけでSLICEモードが適用され、再生と読み込みが即座におこなわれます。(デフォルト設定)

1 再生モード

サウンドファイルの再生モードを設定します。

- » **SAMPLE (サンプル) モード**
一般的なサンプラーと同じ様にループ/フレーズ素材のサンプル再生をします。
- » **STRETCH (ストレッチ) モード**
音程に左右されることなく、同じ長さでサンプル再生をします。
- » **SLICE (スライス) モード**
ループ素材を扱う際のデフォルトのループ再生モードです。
- » **MAP (マッピング) モード**
SLICEモードのオプションモードです。ループ素材をスライスごとにMIDIノートが割当てられ、鍵盤でスライスの演奏が可能になります。

2 コントロール

メモ：再生モードによって利用可能な操作パラメーターが異なります。SLICEモードでは全パラメーターにアクセス可能です。

- » **Key (キー) と Tempo (テンポ)**
ループ/フレーズ素材のルートキーとテンポを表示します。

- » **コース (Coarse) とファイン (Fine)**
素材の音程を半音 (Coarse) とセント (Fine) 単位でを調節します。
- » **Sync (シンク) モード**
テンポ同期モードを設定します：
 - off - テンポ同期せずに再生をします。
 - tempo - テンポのみの同期モードです。
 - position - テンポと再生位置の同期をします。
- » **Speed (Speed) コントロール**
テンポ設定を基準にした再生テンポ調節です。
 - 1/2 と x2 - テンポを1/4~4倍に設定します。
 - Fine - ±50.00%の微調整をします。
- » **ラッチ (LATCH) ボタン**
MIDIノートを離れた際の再生動作を設定します。オンにした場合、次の通りに作用します：
 - STRETCH/SLICEモード - 鍵盤を離してもループ再生が持続されます。
 - SAMPLEモード - ワンショット再生します。
 メモ：同じMIDIノートの入力で再生を停止します。
- » **トリガー (Trigger) モード**
MIDIノート入力で再生操作した際の動作を設定します：
 - Immediate - 即座に再生をします。
 - Next Beat - 次の拍頭で再生を開始します。
 - Next Bar - 次の小節頭で再生を開始します。

- » **Slice Start (スライススタート) ポジション**
 - STRETCH/SLICEモード - サンプル再生の開始位置を設定します。
 - SLICEモード - 再生頭のスライスを決めます。

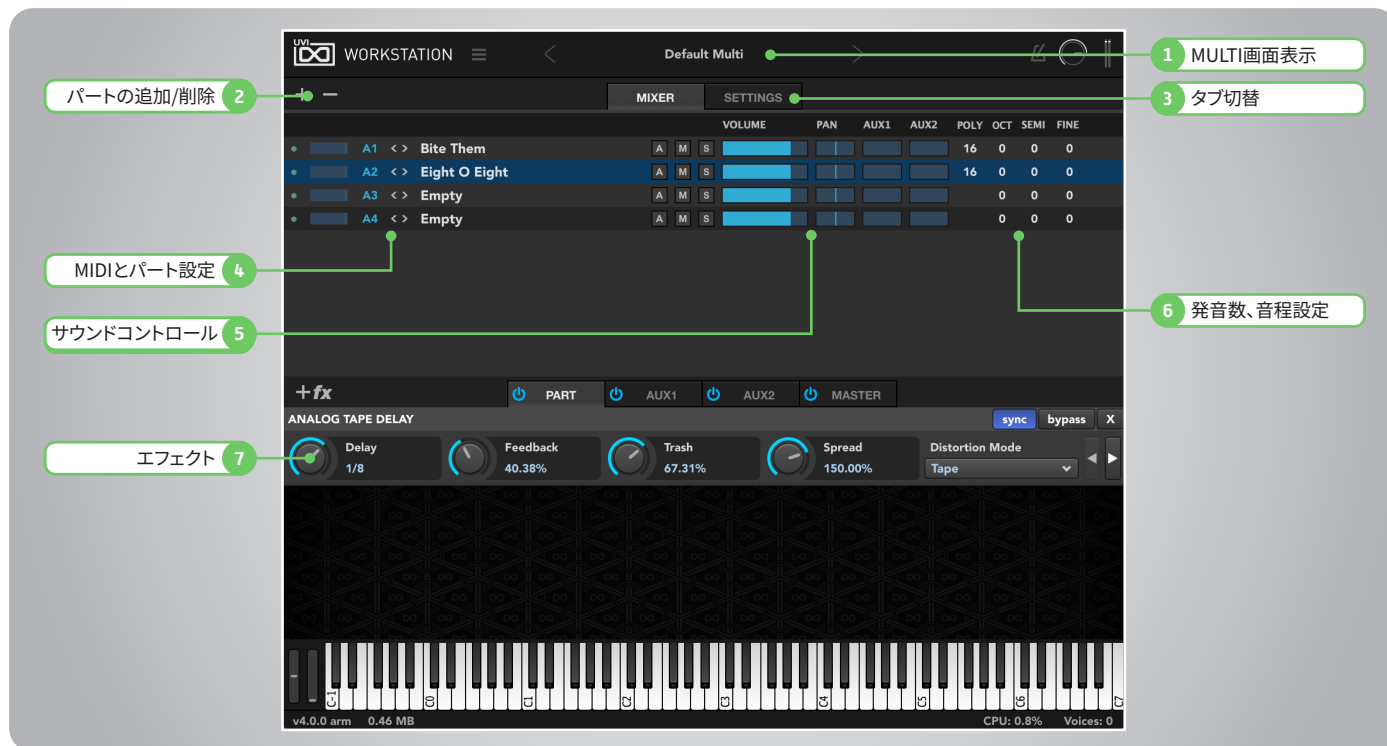
3 ドラッグ&ドロップ

ここをDAWのトラックなどにドラッグ&ドロップ操作することで、素材をテンポマッチしたオーディオ (SLICEモード) またはスライスを演奏するためのMIDI (MAPモード) ファイルとして書出します。

4 自動再生/再生

- » **自動再生ボタン**
UVI Workstationの再生動作に合わせてループファイルの自動再生と停止をおこないます。
- » **再生ボタン**
ループファイルの再生と停止をします。

操作画面：マルチ (Multi) モード - ミキサー (MIXER) タブ



MULTIは、音色とその操作/パラメーター、パート、ミキサー設定含むUVI Workstationのスナップショットで、複数パートの音色設定やお気に入りパラメーターの設定を素早くリコールする際に便利です。Multiの保存内容は、DAWのソングやプラグインプリセットで保存されるUVI Workstationの設定と同等です。MULTI画面に切替えるとMAIN画面上端のパートプリセットメニューは、Multiメニューに置換えられます。メモ：Multiブラウザーの操作マナーは通常のプリセットブラウザーと同じですが、Multiファイルのアクセスのみに使用します。

1 ▶ Multiメニュー

現在開いているMulti名を表示します。この箇所のダブルクリックでMultiブラウザーを開きます。メニューボタンを使用するとMultiの読み込み、保存、リセットがおこなえます。

2 ▶ パートの追加と削除 (+/-)

- ▶ **+ボタン** - パートを追加します。
- ▶ **-ボタン** - 選択されたパートを削除します。

3 ▶ タブ切替

画面上半分の表示を切替えます。

- ▶ **MIXER (ミキサー) タブ**
パートのミキシングパラメーターを表示します。
- ▶ **SETTINGS (設定) タブ**
パートの追加設定にアクセスします。

4 ▶ MIDI とパート設定

- ▶ **• (MIDIインジケーターとミュート)**
MIDI入力の状態に応じ点灯します。クリックをすると、MIDI入力をミュートします。
- ▶ **MIDIレベル** - MID 入力の強さを表示します。
- ▶ **MIDIチャンネルとポート** - パートのMIDIチャンネルの表示と設定をします。
- ▶ **パート名**
パートに読み込まれたプリセット名を表示します。プリセットが読み込まれていない場合は 'Empty' と表示します。ダブルクリックでブラウザーが開きます。左横のカーソルボタン ('<'と'>') で同じカテゴリーの音色を切替えることが出来ます。

5 ▶ サウンドコントロール(ミキサー)

- ▶ **A** - アルベジエーターを開きます。
- ▶ **M** - パートをミュートします。
- ▶ **S** - パートをソロにします。
- ▶ **VOLUME** - パートを音量を調節します。
- ▶ **PAN** - パートをステレオ定位を調節します。
- ▶ **AUX 1 と AUX 2** - AUXセンド量を調節します。

6 ▶ 発音数、音程設定

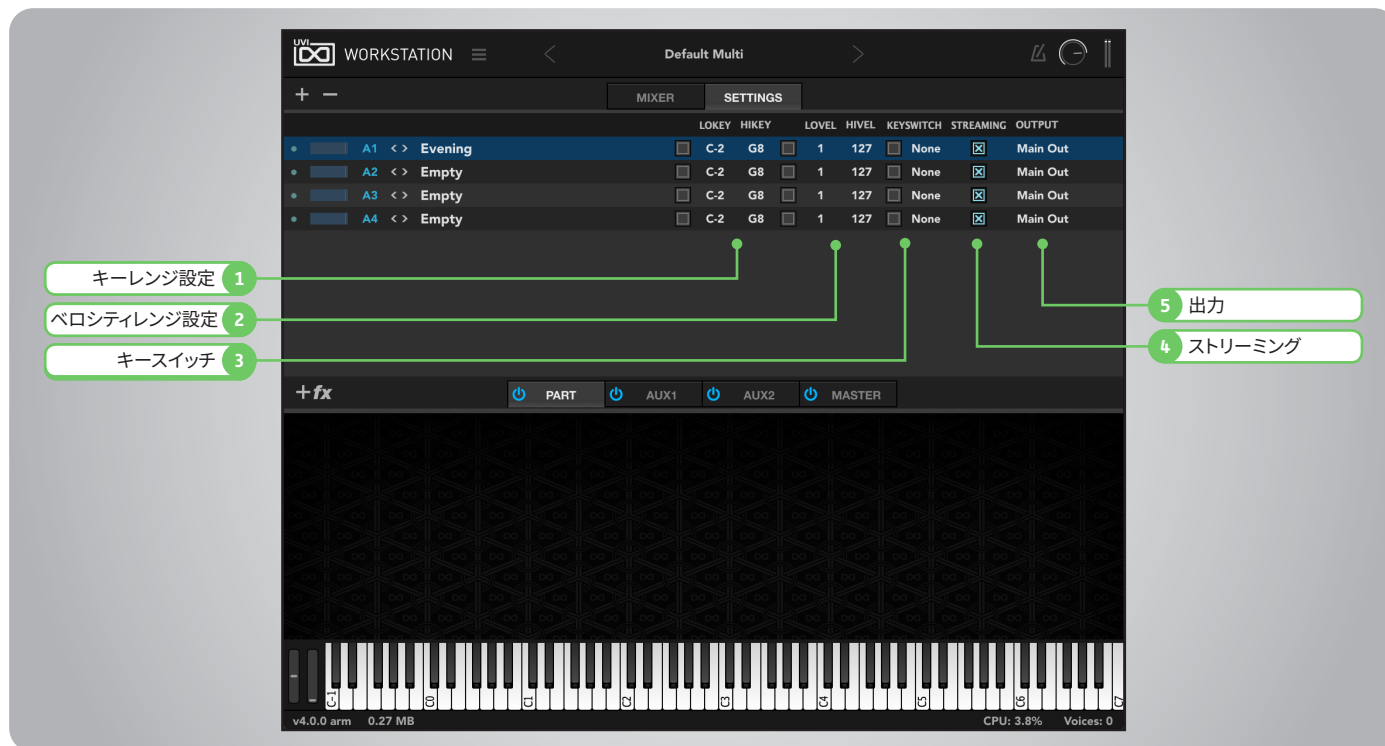
- ▶ **POLY** - パートの最大同時発音数を設定します。
- ▶ **OCT** - パートをオクターブ単位でシフトします。
- ▶ **SEMI** - 半音単位のMIDIトランスポーズをします。
- ▶ **FINE** - パートの音程 (オーディオ) をセント単位で微調整します。

7 ▶ エフェクト

UVI Workstationのエフェクトチェーンを表示します。詳細は13ページに記載しています。

マルチ<>シングルモードの切替に関する重要事項：
シングルモードで表示されている画面は、マルチモードで選択されているパートの詳細画面です。従いまして、マルチモードからシングルモードに切り替える際、選択されているパートの画面になることを覚えておきましょう。

操作画面：マルチ (Multi) モード - 設定 (SETTINGS) タブ



この画面はパートの音域やベロシティなどのMIDI設定を扱います。これらの設定は、ゾーンやベロシティ設定を持たないシンプルなMIDIキーボードコントローラーでもスプリットゾーンやスタックレイヤーなどの演奏設定を可能にし、ライブ演奏や複数パートを駆使した音作りの際に役立ちます。また、パートのミュートを操作するキースイッチやパートごとのマルチ出力設定も用意されています。

メモ：マルチMIDI入力やマルチオーディオ出力が設定されている音色プリセットをパートに読み込んだ場合、MIDIやオーディオ設定操作はデフォルトのままにしておきましょう。

1 ▶ キーレンジ設定

パートの音域 (有効なMIDIノート範囲) を設定します。主に複数パートを活用したスプリットレイヤーの構築に使用します。

- » **オン・オフスイッチ** - LOKEY左横のボックスでこの機能をオン・オフします。
 - » **LOKEY** - キーレンジの下限ノートを設定します。
 - » **HIKEY** - キーレンジの上限ノートを設定します。
- キー設定はマウスドラッグ、あるいはダブルクリックしてのMIDIノート入力でおこないます。
- メモ：予め音域がプログラミングされているプリセットの音域を広げることはできません。

2 ▶ ベロシティレンジ

パートが反応するベロシティレンジを設定します。主にパートを重ね、ベロシティによる音色変化を演出する際に使用します。

- » **オン・オフスイッチ** - LOVEL左横のボックスでこの機能をオン・オフします。
- » **LOVEL** - ベロシティレンジの下限を設定します。
- » **HVEL** - ベロシティレンジの上限を設定します。

3 ▶ キースイッチ (KEY SWITCH)

特定の鍵盤 (ノート) 情報で、パートミュートを操作する為の機能です。この機能によって、複数の音源 (パート) で構成された音色の個々のパート、もしくはグループを簡単に操作して、音色を切替えることが可能です。

この機能はループ再生を操作しながらの演奏や、音色を切替えながら演奏をする際に便利です。

キースイッチ設定はマウスドラッグ、あるいはダブルクリックしてのMIDIノート入力でおこないます。

この項目左横のボックスで、この機能のオン・オフを設定します。

4 ▶ ストリーミング (STREAMING)

ストリーミングの設定をします。通常、オンに設定されています。(ディスク) ストリーミングは、RAMメモリで処理しきれない数〜数十ギガバイト (GB) 容量の音色を使用する際に有効な機能です。

この機能によって、実装RAMメモリ以上の大容量データを使用することも可能です。

オフにした場合、パートに含まれている全てのサンプルデータがRAMメモリに取込まれます。サウンドバンクファイルを保管するディスクの性能 (転送速度) が不十分な際に有効です。

5 ▶ 出力 (OUTPUT)

UVI Workstation はメイン出力を含め、全部で17のステレオ出力を装備します。

この項目では、各パートの出力先を設定 (マルチ出力) します。初期設定では、全パートMain Out (メイン出力) に設定されています。

スタンドアローンモードのマルチ出力

Main Out と16のサブ出力 (2 ~ 17) をメニューから選ぶことが出来ます。

実際の出力は "Audio and MIDI Settings..." (ページ16に記載) の設定とご利用のオーディオデバイスの仕様に依存します。

プラグインモードのマルチ出力

メニュー表示と実際の出力数はご利用のシステム環境、プラグイン形式、ホストアプリケーション (DAW) によって異なります。

メモ：AUX/バスの出力はMain Outのみに送られます。

操作画面：マルチ (Multi) モード - エフェクト設定



UVI Workstationは1つのパートに対して1つの専用のエフェクトチェーン、3つの全パート共通のチェーンが用意されています。
いずれのチェーンも上から下にエフェクトモジュールが並び、信号は直列で流れます。
PARTはさらにエフェクトを追加する際に使用します。並列のエフェクト処理をご希望の場合は、AUXバス (11ページに記載) を使用します。

1 エフェクトチェーン

タブのクリックで、エフェクトチェーンの表示選択をします。

- » **電源ボタン** - チェーンのオン・オフを切り替えます。
- » **PART (パート)** - パートのインサートエフェクトを扱います。
- » **AUX 1/2** - 全パート共通のAUXエフェクトを扱います。
この2つのチェーンはメイン出力へと送られます。Return: スライダーで、チェーン全体のエフェクトバランスの調整をします。
- » **MASTER (マスター)** - メイン出力のマスターインサートエフェクトを扱います。

エフェクト操作に関するメモ:

UVI Workstationの内蔵エフェクトはどれも一般的なもので、このマニュアルでは個々のエフェクトモジュールに関する解説は割愛させていただきます。

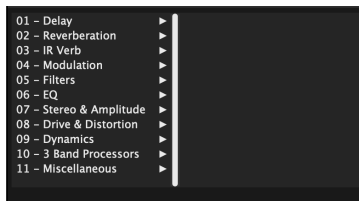
チェーン内のエフェクトの順番は変更可能で、エフェクト名の箇所を上下にドラッグします。

また、エフェクト名の右クリックで、エフェクトを差し替えることが可能です。

2 エフェクト追加 (+FX)

エフェクトを追加します。

ボタンを押すと、エフェクトブラウザーが開き、目的のエフェクトそしてプリセットを選択して追加します。



エフェクトの種類を変更する場合は、エフェクト名の箇所をダブルクリックします。

3 エフェクトパラメーター

UVI Workstationでは、エフェクトモジュールのサイズが固定で、パラメーターは横一列に並びます。

4 エフェクトページ

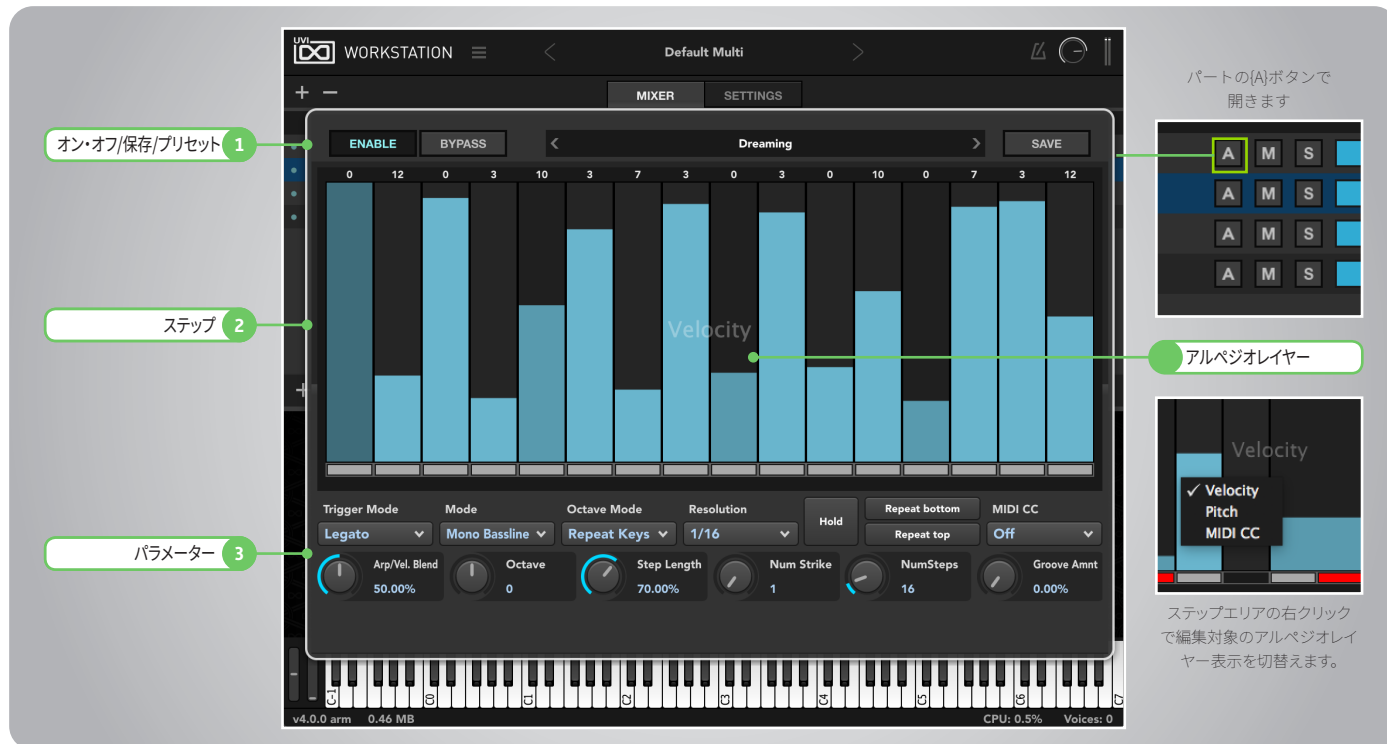
利用可能なパラメーター数と内容はエフェクトモジュールによって異なりますが、エフェクトの画面表示は、1モジュールにつき5パラメーターとなります。

画面に表示しきれないパラメーターは、画面右端のページボタン(◀と▶)を使用することで、表示されていないパラメーターにアクセス出来ます。

5 シンク/バイパス/削除

- » **シンク(sync)** - 時間経過とともに変化するエフェクトパラメーターをテンポと同期させる際、オンにします。
- » **バイパス(bypass)** - エフェクトをバイパスにします。
- » **削除(X)** - エフェクトをチェーンから削除します。

操作画面：マルチ (Multi) モード - アルペジエーター



UVI Workstationのアルペジエーターは、通常のアルペジオ演奏以外にパターンゲートや先進的なリズムミックスプロセッサの様に扱うことが可能です。

UVI Workstationのアルペジエーターはパートごとに追加することが可能で、Velocity/Pitch/MIDI CCの3レイヤーを個別に扱える仕様です。

メモ：アルペジオ演奏の停止は、トランスポートセクション(メトロノームアイコン)の停止ボタンを使用します。

1 オン・オフ/保存/プリセット

- » **ENABLE (オン・オフ)** - アルペジエーターのオンとオフをおこないます。
- » **BYPASS (バイパス)** - アルペジオの動作と設定を保持したまま、バイパスにします。
- » **プリセットメニュー** - プリセットパターンの選択をします。
- » **SAVE (保存)** - 現在のアルペジオパターンと設定を保存します。

2 ステップ

- » **ステップグリッド** - ステップの操作と値の表示をします。上下のドラッグでステップ値を設定します。Shift+左右ドラッグで、ステップの長さ(ゲート)を調節します。
- » **レイヤー (Velocity/Pitch/MIDI CC)** - ステップエリアの右クリックで、レイヤー表示の切替をします。
- » **ステップオン・オフ** - グリッド下のスイッチでステップをオフにできます。
- » **マージ** - グリッド下のスイッチのshift+クリックで、左横のステップとマージ(スラー)をします。

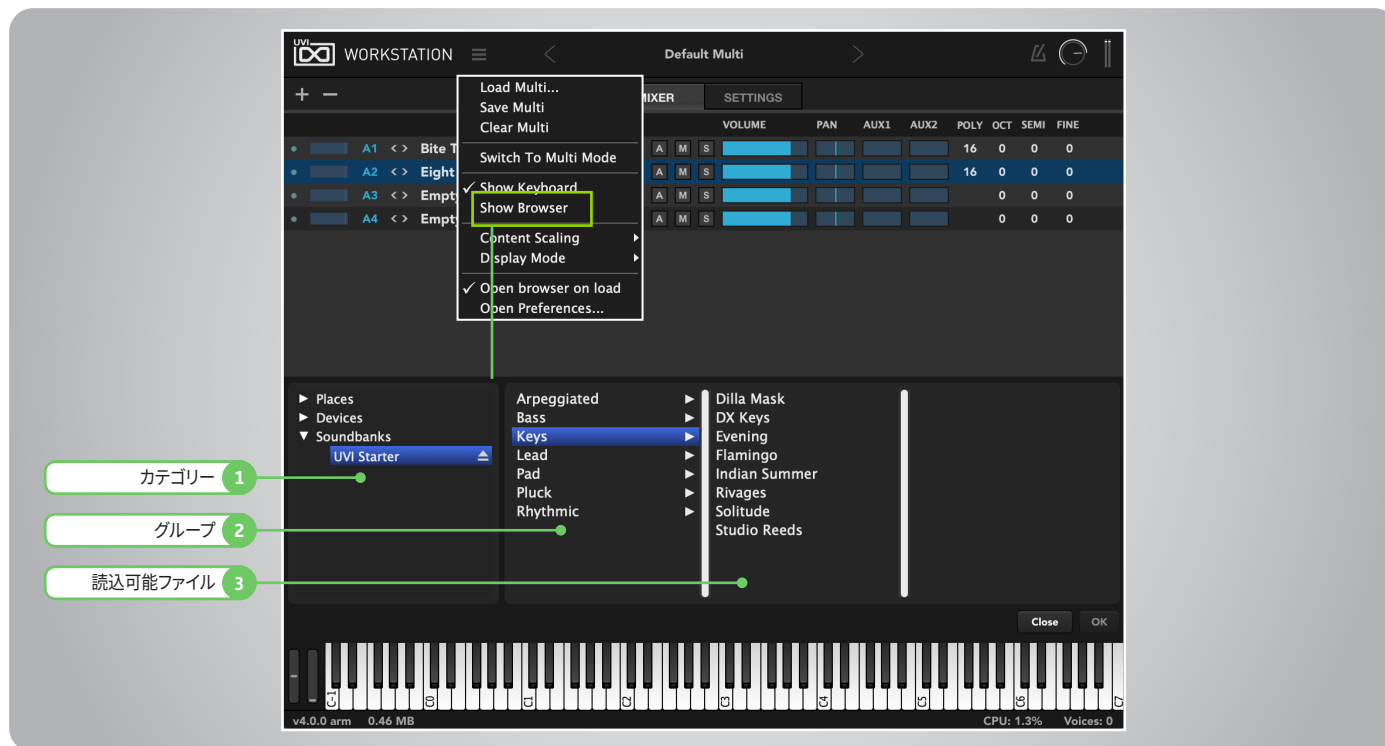
3 パラメーター

- » **Trigger Mode (トリガーモード)**
 - **Note** - 常に頭のステップから開始します。
 - **Legato** - 新規のノート入力は、そのタイミングのステップが適用されます。
 - **Song Position** - ソングポジションと連動した位置から演奏開始します。
- » **Mode (モード)** - アルペジオの演奏順を設定します。
- » **Resolution (レゾリューション)** - ステップ分解能(音符)を設定します。
- » **Octave Mode (オクターブモード)**
 - **Repeat Pattern** - オクターブごとにパターンノートを繰り返します。
 - **Repeat Keys** - パターンは全音域にまたがって演奏をされます。
- » **Hold (ホールド)** - ノートホールドをするかどうかを設定します。
- » **Repeat Bottom (リピートボトム)** - 双方向のアルペジオ演奏時のボトムノート(最低音)の扱いを設定します。オンにした場合、アルペジオのボトムノートを繰り返します。
- » **Repeat Top (リピートトップ)** - 双方向のアルペジオ演奏時のトップノート(最高音)の扱いを設定します。オンにした場合、アルペジオのトップノートを繰り返します。
- » **MIDI CC** - MIDI CC レイヤーのコントロールナンバーを設定します。
- » **Arp Vel Blend (ペロシティブレンド)** - 全体のペロシティの深さを調節します。
- » **Octave (オクターブ)** - アルペジオ演奏のオクターブ範囲を設定します。
- » **Step Length (ステップレングス)** - 全てのステップの長さを設定します。この設定が50%の場合、既に個別設定で50%になっているステップの長さは25%になります。
- » **Num Strike (ストライク数)** - 次のノートが処理されるまでのトリガー数を設定します。
- » **NumSteps (ステップ数)** - アルペジオステップ数を設定します。
- » **Groove Amnt (グルーブアマウント)** - スウィング量を設定します。

例：オフ時 - ABCBABCBA~、
オン時 - ABCBAABCBA~

アルペジエーターを閉じるには、パネル外のUVI Workstationのどこかをクリックします。

操作画面：マルチ (Multi) モード - ブラウザー表示



このブラウザーは、一般的なカラムスタイルのブラウザーです。左端のカテゴリーを選択しますと、その内容が右の列に表示されます。そこにグループ分けされたフォルダが存在する場合、さらにその内容が右横の列に表示されます。このブラウザーは、複数パートでプリセットを選択する作業に適しています。

1 カテゴリー

- » **Places (フォルダ)**
登録されたフォルダにアクセスするためのカテゴリーです。
- » **Devices (デバイス)**
PCが認識したドライブを表示します。
- » **Soundbanks (サウンドバンク)**
マウントされたUVIライブラリーを表示します。

2 グループ

音色グループを表示します。多くのUVIサウンドバンクライブラリーでは、同じタイプの音色プリセットにグループ分けされています。

3 読み込み可能ファイル

音色プリセットやループなど、UVI Workstationで読み込むことが可能なファイルが表示されます。

ループやサンプルファイルの場合、ここからDAWのトラックなどに直接ドラッグ&ドロップすることも可能です。

メモ：プリセットが1つしか存在しない場合、プリセット切り替えは、サウンドバンク内でおこなうことを示唆します。

マルチブラウザー

マルチモードでは、画面上端のマルチ名（デフォルトでは"Default Multi"）と表示をダブルクリックすることで、マルチを開くためのブラウザーが表示されます。



このブラウザーはファイルブラウザーと非常によく似たブラウザーですが、パート音色と設定を含むUVI Workstation全体の状態を保持した"マルチ"ファイルのみを扱います。このブラウザーでは音色やサンプルは開けないことを覚えておきましょう。

» Append Multi (アペンドマルチ)

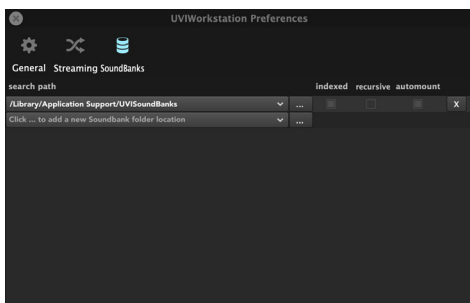
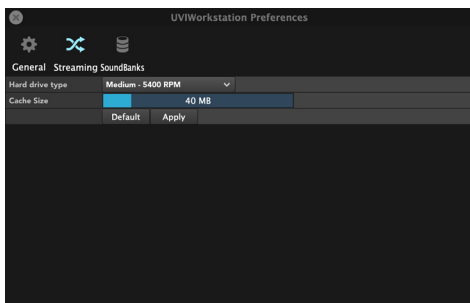
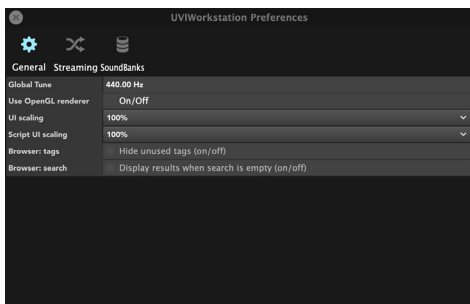
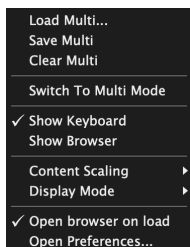
Multiブラウザー左下のAppend Multiをオンにすることで、選択したMultiを現在のMultiに追加することはすることが可能です。

追加後、状況に応じてMIDIチャンネルを設定し直す必要があるかもしれません。

» Close - 変更を適用せずにブラウザーを閉じます。

» OK - 変更適用してブラウザーを閉じます。

環境設定 (Preferences)



Preferences (環境設定) パネル

UWI Workstationの環境設定は、メニューから**Open Preferences...**の選択で表示されます。

このメニューにはGeneral、Streaming、SoundBanksの3つの設定画面が用意され、タブアイコンのクリックで画面を切替えます。

元の画面に戻るには画面左上の(X) ボタンをクリックします。

General (ジェネラル)

- » **Global Tune (グローバルチューン)** - UWI Workstation全体のチューニングを設定します。設定値の基準は“A = 440Hz”を使用します。392.00から493.88Hzまで範囲で設定変更可能です。この機能は他の生楽器とチューニングを合わせる際に便利です。
プラグインモードの場合、1つのプロジェクト内に複数立ち上げたUWI Workstationごとにグローバルチューニングの設定をする必要があります。
設定値を元に戻す場合は、alt/option キーを押しながらこの項目をクリックします。
- » **Use Open GL renderer (Open GL レンダラーを使用)** - コンピューターのグラフィック処理がCPU内蔵の場合、オフにすることで負荷の軽減が図れます。
- » **UI scaling (ユーザーインターフェイススケーリング)** - 画面サイズの拡大または縮小を設定します。HiDPIや4kディスプレイなどの環境に有効です。
- » **Script UI scaling (スクリプトユーザーインターフェイススケーリング)** - サウンドバンク専用の操作画面のみに対する表示の拡大または縮小の設定です。
- » **Browser: tags (ブラウザータグ)** - オンにした場合、関連づけられたタグのみが表示されます。オフの場合は、関連しないタグはグレイアウト表示になります。
- » **Browser: search (ブラウザーサーチ)** - 検索ワードを入力しない場合でもプリセットが一覧に表示されるかどうかを設定します。

Streaming (ストリーミング)

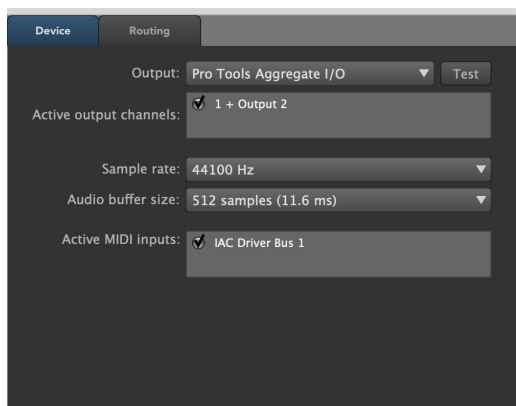
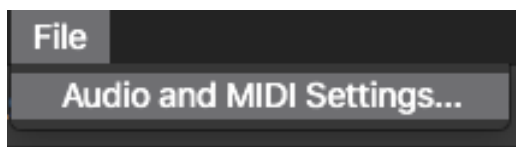
ストリーミングは大容量の音色プログラムを快適に使用する為の機能です。RAMメモリ消費とディスクパフォーマンスを最適にする為の設定が用意されています。

- » **Hard drive type (ハードドライブタイプ)** - UWIサウンドバンク (UFS) ファイルを保管しているディスクの性能 (SSD、7200回転HDD、5400回転HDD、ネットワークディスクなど) に合わせて設定をします。UFSが複数のディスクに分散してインストールされている場合は、メインのUFSを保存しているディスクの性能に合わせてます。
メモ: 高性能ドライブを使用しても十分なパフォーマンスが得られない場合、ここの設定が適切かどうかを確認しましょう。
- » **Cache Size (キャッシュサイズ)** - 演奏によってストリーミングされたサンプルボイスを保持するキャッシュサイズを設定します。この設定によって、発音時のドロップアウトなどを防止に役立ちます。設定値が小さいほど、CPUとディスクへの負担が大きくなり、設定値が大きいほどRAMメモリの占有が増加します。
- » **Apply (適用) ボタン** - 変更を適用します。(注意: このボタンを押さずに画面を切替えた場合、変更した設定は適用されません。)

Sound Banks (サウンドバンク)

- » **search path (サーチパス)** - サウンドバンク (UFS) の検出 (automountオン時) と検索を有効にする為の場所 (フォルダー) を設定します。
新しいサーチパスを追加するには、入力欄右横の “[...]” ボタンを押して、場所を設定します。
メモ: サーチパスの設定ダイアログは、UFSファイルではなく、フォルダ (場所) 選が為に使用します。
- » **Indexed (インデックス) ボタン** - ブラウザー検索の為のインデックス作成をおこなうかどうかを設定します。オフにした場所のサウンドバンクは、検索対象から外れます。
- » **recursive (リカーシブ) ボタン** - サーチパスのライブラリー検出対象にサブフォルダを含めるかどうかを設定します。オフにした場合、パスの最上層 (親フォルダ) だけを対象となります。
- » **automount (オートマウント) ボタン** - 選択されたサーチパス内の UWIサウンドバンクを自動でマウントするかどうかを設定します。
- » **X (消去) ボタン** - 不要なサーチパスを消去する際にクリックします。

Audio and MIDI settings (オーディオMIDI設定)



Audio and MIDI settings (オーディオMIDI設定)

スタンドアロンモード (単独のアプリケーションとして起動時) の UVI Workstation のオーディオ出力と MIDI 入力の設定は、File メニュー (macOS は画面の左上、Windows はウインドウの左上) の "Audio and MIDI settings..." 開いておこないます。

UVI Workstation を起動する前に、オーディオと MIDI デバイスがコンピューターに正しく接続されていることを確認しましょう。

メモ: プラグインモードの場合、オーディオ出力と MIDI 入力は DAW で設定します。

▶ Audio Device (オーディオデバイス)

- » **API (エーピーアイ)** - オーディオデバイスの種類 (ASIO など) を設定します。 (Windows 環境のみ)
- » **Output (アウトプット)** - オーディオ出力デバイスを設定します。目的のデバイスが表示されない場合は API 設定、デバイスドライバのインストールが正しいどうか、確認しましょう。
- » **Test (テスト)** - 選択されたオーディオデバイスの有効出力にテスト信号を設定送信します。
- » **Active Output Channels (アクティブアウトプットチャンネル)** - 選択されたオーディオデバイスで利用可能な出力ポートを表示します。目的のポートにチェックを入れることで、有効化され、利用可能になります。
- » **Sample Rate (サンプリングレート)** - サンプリングレートを設定します。 (選択肢はデバイスに依存)
- » **Buffer Size (バッファサイズ)** - 演奏をした際に発音の遅れや、反応が悪いと感じた場合、この設定変更を試しましょう。 (選択肢はデバイスに依存)

ご利用のシステム環境に合わせて、これまでの設定よりも小さい値にすることで、パフォーマンスの改善が図れます。ただし、設定値が小さ過ぎる場合、コンピューターへの負荷が大きくなり、不要なノイズを引き起こす可能性がありますので、気をつけましょう。

また、システムや CPU 環境によっては大きい設定値 (512 以上) にすると逆にパフォーマンスが低下する可能性もあります。ご自身の環境で最適になるように試すことをお勧めします。

- » **Active MIDI Inputs (アクティブ MIDI インプット)** - UVI Workstation を演奏、操作する為の MIDI キーボードやコントローラーと MIDI ポートを設定します。複数のデバイスを同時利用する場合、有効にしたポートの信号は、チャンネル情報を維持したままマージされて、UVI Workstation に送られます。

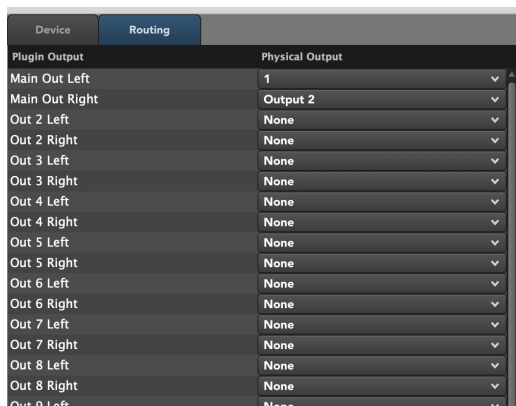
ここに利用可能な MIDI デバイスのポートが表示されますので、目的のポートにチェックを入れることで、利用可能になります。目的のデバイスが表示されない場合はデバイスドライバのインストールや接続が正しいどうか、確認しましょう。

▶ Routing (ルーティング)

UVI Workstation はメイン出力を含め、全部で 17 のステレオ出力を装備します。この画面では、UVI Workstation の出力とオーディオデバイスの出力を結びつける設定をします。

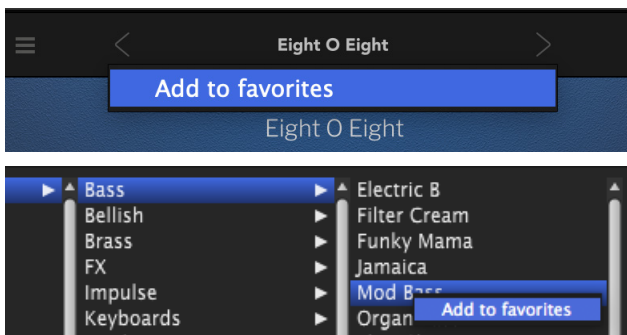
- » **Plugin Output (プラグイン出力)** - UVI Workstation の出力を左右チャンネル個々に表示します。
- » **Physical Output (オーディオデバイスの出力)** - UVI Workstation の出力に対するオーディオデバイスの出力ポートを設定します。 (選択肢はデバイスに依存)

メモ: この設定は、マルチ出力のオーディオデバイスにのみ有効です。ステレオ出力のみのオーディオデバイスでは設定をする必要はありません。



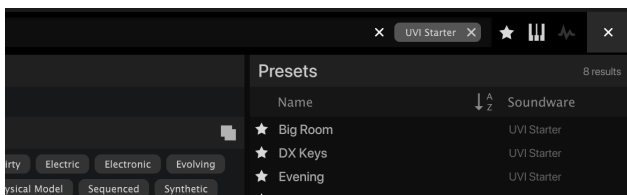
ヒントと秘訣 (Tips + Tricks)

▶ プリセットのお気に入り登録



プリセットファイルをお気に入り登録することで、より快適なプリセット検索を実現します。登録するには、プリセットファイルを右クリックすることで、お気に入りの登録 (Add to favorites) と解除 (remove favorites) がおこなえます。

登録されたファイルはブラウザーで、★スイッチのクリックで、絞り込まれて一覧表示することが可能です (下図参照)



また、通常のブラウザー表示ではプリセット名横に★タグが付きま。

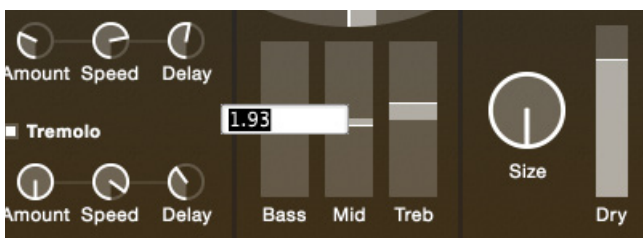
▶ マウスのスクロール機能

画面上の全てのノブやスライダーは、マウスホイールのスクロール機能やトラックパッドのスクロールジェスチャーで操作することが可能です。

▶ ショートカットとコマンド

- ▶ スペースバー - 再生/停止
- ▶ alt/option + クリック - パラメーターのリセット
- ▶ 右/control + クリック - MIDIコントロール/オートメーション設定画面を開く
- ▶ カーソル (矢印) キー - ブラウザーナビゲーション

▶ パラメーターの数値入力



画面上のノブやスライダーはダブルクリックをすることで、数値入力が可能です。

▶ プリセットのスタック

UVI Workstationはお好きな数だけパートを追加することが可能です。このことで、サウンドバンクライブラリーを超えて、パート=音を重ねたスタックレイヤーされたサウンドが簡単に構築できます。重ねるには、表示をMULTIに切替えて、必要なパート追加とプリセットを読み込み、全パート同じポートのMIDIチャンネルに設定するだけです。

▶ スプリット、ベロシティとキースイッチ

		LOKEY	HIKEY	LOVEL	HIVEL	KEYSWITCH	STREAMING	OUTPUT
A1	<>	Bulgarian Tupan	C-2	G8	1	127	C3	Main Out
A2	<>	Misc Percs Large	C-2	G8	1	127	None	Main Out
A3	<>	Hungarian Cymbalum	C-2	G8	1	127	None	Main Out
A4	<>	Flamenco Guitar	C-2	G8	1	127	C3	Main Out
A5	<>	Jaw Harp	C-2	G8	1	127	None	Main Out

キースイッチを使用することで、2つ以上の音色 (パート) を切替えることができます。更にベロシティレンジ (LOとHIVEL) やキーレンジ (LOとHIKEY) 設定を組み合わせることで、ベロシティによる音色変化やスプリットレイヤーの構築などが可能です。

▶ マルチオーディオ出力

		LOKEY	HIKEY	LOVEL	HIVEL	KEYSWITCH	STREAMING	OUTPUT
A1	<>	Bulgarian Tupan	C-2	G8	1	127	C3	Main Out
A2	<>	Misc Percs Large	C-2	G8	1	127	None	Main Out
A3	<>	Hungarian Cymbalum	C-2	G8	1	127	None	Main Out
A4	<>	Flamenco Guitar	C-2	G8	1	127	C3	Out 2
A5	<>	Jaw Harp	C-2	G8	1	127	None	Out 3
A6	<>	Uilleann Pipes	C-2	G8	1	127	C3	Out 4
A7	<>	Celtic Harps	C-2	G8	1	127	None	Out 5
A8	<>	Middle East Percussions	C-2	G8	1	127	None	Out 6
A9	<>	Santoor	C-2	G8	1	127	C3	Out 7
A10	<>	Balkanish Double Bass	C-2	G8	1	127	None	Out 8

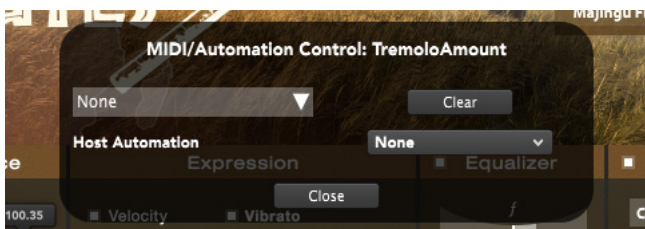
UVI Workstationは、パート毎に出力を設定することが可能です。設定の変更は、MULTI表示のSETTINGSタブで行ないます。

設定可能なオプション出力は、メインアウト以外に最大16ステレオアウトが用意されています。

メモ: UVI Workstationのマルチ出力を受けるにはホストとなるDAW側でも設定が必要です。DAWマニュアルの (マルチ出力) プラグインに関する項目も合わせて確認しておきましょう。

ヒントと秘訣 (Tips + Tricks)

▶ MIDIコントローラーとオートメーション



UVI Workstation (とUVIサウンドバンク) 上の殆どのコントロールパラメーターは、MIDIコントロール信号 (コンティニュアスコントローラ/コントロールチェンジ/CC) でリモート操作可能です。

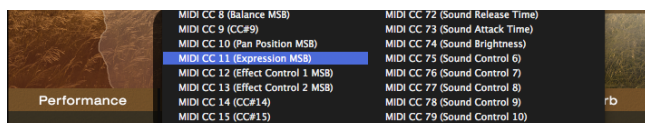
これとは別にDAWのオートメーションとして扱うことも可能です。

- ▶ 全てのエフェクトパラメーター、UVIサウンドバンクのマクロノブとスライダーはコントロールの割当てが可能です。
- ▶ 割当てられたMIDIコントロール信号の種類とチャンネル設定は、MULTIまたはDAWのソングに含まれる形で保存されます。
- ▶ オートメーションはパート毎に割当てます。

割当方法 (コントロールアサイン) はとても簡単です:

1. 目的のパラメーターを右クリックして、設定画面を開きます。
2. MIDIコントローラー (ツマミ、フェーダー、ボタンなど) を操作して、コントロール情報を送信します。
3. UVI Workstationがコントロール情報を受け取るとパラメーターの割当て設定が完了し、自動で画面が閉じられます。

手動設定をする場合、画面のメニュー (左側の大きい方) をクリックし、メニューからコントロール番号を選び、画面を閉じます。

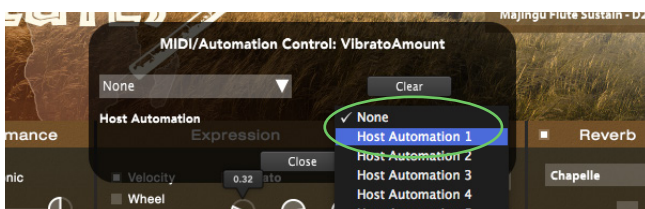


割当てを解除するには、右クリックで割当て画面を表示し "Clear" ボタンをクリックします。

幾つかのパラメーターは、alt/optionキー+右クリックをすることでMIDIモジュレーションのコントローラー割当てが可能です。

オートメーション設定:

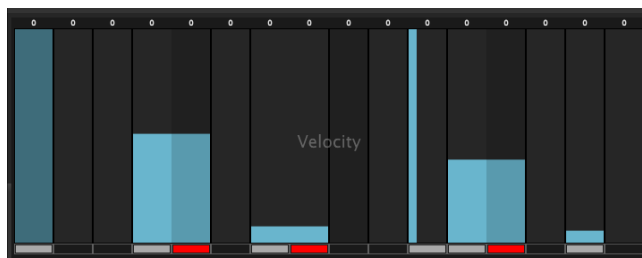
1. 目的のパラメーターを右クリックして、設定画面を開きます。
2. 右下のHost Automationメニューから、オートメーションスロットを選びます。



メモ: オートメーション設定を手動でおこなう理由

DAWのオートメーション設定は、プラグインの規格によって1つのプラグインインスタンスで扱えるパラメーターに制限があります。UVI Workstationとサウンドバンクは、無制限パートと自由な構造と構成によって、簡単にその制限を大きく超越します。その為、この設定が設けられています。DAWと連携して、自動割当機能を持つMIDIコントローラーの殆どはオートメーション情報を使用しますので、場合、この設定が活かされます。

▶ アルペジエーター



UVI Workstation はパート毎にアルペジエーターが用意されています。

アクセスするには、画面表示をMAINに切替えます。次にARPタブをクリックします。そしてENABLEボタンでアルペジエーターをオンにするとパラメーターが表示されます。

メモ: UVIサウンドバンクライブラリーの操作パネルにアルペジエーターが用意されている場合、パートのアルペジエーターはその前段に位置します。

▶ 制限の無いエフェクトの追加



UVI Workstation は豊富なバリエーションのエフェクトを装備します。オーディオプロセッシングに必要なエフェクトをカバーします。エフェクト処理の順番はとてもシンプルで上から下に信号が流れます。追加可能なエフェクトの数に制限はありません。

- ▶ MAIN画面では "EFFECTS" タブのクリックで表示します。
- ▶ MULTI画面は、画面の下半分に表示されます。

▶ Multiの追加



Multiブラウザー左下のAppend Multiをオンにすることで、選択したMultiを現在のMultiに追加することはすることが可能です。

追加後、状況に応じてMIDIチャンネルを設定し直す必要があるかもしれません。

トラブルシューティング

▶ プラグインとしてのUVI Workstation

UVI Workstationはインストゥルメント(ソフトウェア音源)として、一般的なDAWソフトウェアのプラグインとして使用することが可能です。利用するにはDAWのインストゥルメント、AUX、MIDIトラックなどと共に追加をします。詳しくはDAWのプラグインに関する項目を確認しましょう。

UVI WorkstationをDAWで演奏するには、ホストアプリケーションのMIDIあるいはインストゥルメントトラックからMIDI情報を送る必要があります。MIDIトラックを使用する場合、その出力先がUVI Workstationに設定されていることを確認しましょう。その際、MIDIチャンネル設定も忘れずに確認しましょう。

▶ オーディオ出力の歪みにご注意下さい

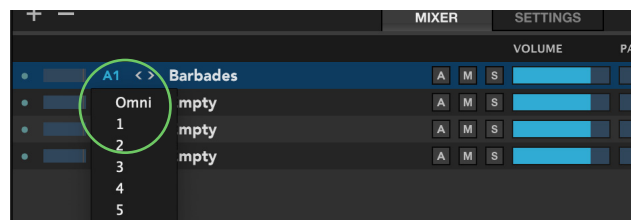
DAWでオーディオトラックを重ねた際と同じ、UVI Workstationで複数のパートを重ねた場合、適切な音量調節をしないと音量過多によって、意図しない歪みが生じることがあります。音量過多になった場合、UVI Workstationのレベルメーターで確認することができます。シングルパートで発生した場合、エフェクト部で歪みが生じていないかどうか、全体の音量と合わせてご確認ください。

▶ 適切なサンプル読み込み量

一般的な経験則としてRAMメモリの消費量は、システムメモリ空き容量の70%程度になります。UVI Workstationを使用する際、メモリ消費をこれ以下の量に留めておきましょう。例えば、メモリの空き容量が1GBであった場合、使用限度は700MBとなります。プラグインとして使用する場合は、DAWや他のプラグインのメモリ消費にも配慮しましょう。

▶ MIDIチャンネル設定

MIDIコントローラーを操作しても反応がない場合、スタンドアローンモードの"Audio and MIDI Settings..."のMIDIデバイス設定、プラグインモードの場合はDAWのコントローラーやトラック設定を再確認します。



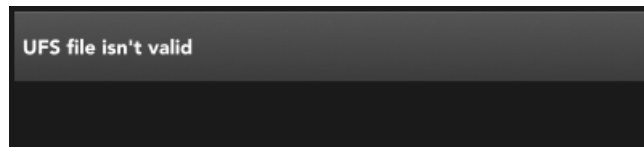
設定に問題が無いようであれば、UVI WorkstationのパートのMIDIチャンネルやポートの設定を確認します。MIDI信号が正常に入力されている場合、チャンネル設定左横のインジケーターが反応します。

▶ ブラウザーの種類

UVI WorkstationにはLibrary、Files、Multiとエフェクトの4種類のファイルブラウザーが存在します。ライブラリーブラウザー以外は、カラム方式で、扱い方と見た目は同じですが、扱えるファイルが異なります。特にFilesとMultiブラウザーは、とてもよく似ていますので、間違えて開く場合があります。

もし、ブラウザーからファイル選択してもファイルを開けない場合、ブラウザーとファイルの種類が適合しているかどうかもう一度確認しましょう。

▶ メッセージ "UFS file isn't valid"



このメッセージはUVI Workstationのバージョンとサウンドバンクのバージョンが合致していないことをお知らせします。

サウンドバンクプリセットを開く際、このメッセージが表示されましたら、UVI Workstationを終了し、最新バージョンにインストールし直してからエラーが解消されるかどうかを確認しましょう。

▶ 一般的なトラブルシューティング

トラブルシューティングは、問題解決の為に最短距離であり、最もシンプルかつ効果的な手段です。症状を切り分け、原因を究明することで、殆どケースにおいて自己解決できることでしょう。

問題に遭遇した際、まずその症状をなるべく詳細かつ正確に書き留めて下さい。エラーIDを含むエラーメッセージ、問題が発生した際に直前におこなった操作、どのようなファイルを扱ったのか、どのように問題から離脱できたのかも合わせてメモをします。

そして、直前に行なった操作をもう一度実行して、問題が再現できるかどうかを確認します。

これらの行動で、問題はすぐに解決できないかもしれませんが、問題解決の為に準備として役立つことでしょう。

もし、発生している問題に一貫性がないと感じる場合、問題を再現するパターンがあるかどうかを見つけましょう。

UVI Workstationの様なソフトウェアでは、バグ(不具合)が存在する場合、その症状は常に一貫しています。同じ条件下で、特定の操作をおこなった場合、常に同じ結果をもたらします。バグかどうかを断定する際、時には一連の行動や要素の1つを別のものに置き換えて検証をする必要があります。例えば、プリセットを容量の小さいものに変更したり、UVI Workstationを別のホストアプリケーションで試したり、DAWとUVI Workstationだけのシンプルなプロジェクトで開くなど、思いつく限り試しましょう。その際はエラーのメモも忘れなく。

もし、症状に一貫性がない場合、恐らくシステム環境、それもハードウェアの問題である可能性が考えられます。ハードドライブの破損、コンピューターマザーボードの障害など。まずは、システムがアップデートされていることや、オーディオやMIDIデバイスのドライバーも含め、もう一度確認しましょう。

問題の切り分け....

最も効果的なトラブルシューティングの1つです。もし、複雑な設定や操作手順であった場合、まずはシンプルな設定や操作手順で、問題が再現できるかどうかを確認します。場合によってはゼロからプロジェクトを作成した際の確認します。例えば、他のホストアプリケーションのプラグインとして問題を確認します。もし、再現する場合、問題の原因は、サンプル、プリセットあるいはそれを含むパフォーマンスデータにあると推測します。

設定の簡素化...

一般的な問題の1つに、システム内の特定のソフトウェアとUVI Workstationの競合があります。この場合、他のプラグインやバーチャルインストゥルメントを含まない、UVI Workstationだけの状態で、問題が再現するかどうかを確認します。

もし、UVI Workstationを含んだ特定のプロジェクトやセッションファイルが開かない場合...

まずは、UVI Workstation自体が機能するかどうか、他の既存のファイルや新しいファイルを開いて確認をします。もし、他のファイルで問題が発生しない場合、UVI Workstationのプラグインを除いた状態、あるいはオーディオ機能を停止した状態で、ホストアプリケーションを起動して確認をします。もし、他のファイルでも同様の問題が発生する場合、問題が特定のファイルではないことと断定できます。

リンク

UVI

ホームページ	uvi.net/
UVI Portal	uvi.net/uvi-portal
UVI SonicPass	uvi.net/sonicpass
UVIアカウント	uvi.net/my-products
FAQ (良くあるご質問とその回答)	uvi.net/faq
チュートリアルとデモビデオ	youtube.com/
サポート	uvi.net/contact-support

iLok

ホームページ	ilok.com/
iLok License Manager	ilok.com/ilm.html
FAQ (良くあるご質問とその回答)	ilok.com/supportfaq

*iLok.comのサービスは、全て英語のみです。



UVI WORKSTATION

クレジットと謝辞

UVI プロデュース

ソフトウェアとスクリプト

Olivier Tristan

Rémy Muller

GUI デザイン

Anthony Hak

Nathaniel Reeves

ドキュメンテーション

Nathaniel Reeves

Kai Tomita



UVI.NET